**校長　森瀬　康之**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。  （１）自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。  （２）人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。  （３）自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。  （４）特別枠入試（「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」）の実施に伴い、より一層多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　確かな学力の育成**  （１）生徒に「学ぶことの意味」をていねいに伝えること等を通して、「学ぶ意欲」を喚起する。また、「主体的・対話的で深い学び」の観点から、基礎・基本となる学力の定着、ならびに自らの考えを的確に伝えるとともに相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育成する。  ア　授業規律の徹底及び共通履修科目の指導を通した基礎・基本となる学力の充実を図る。その際、授業ノートの取り方、話の聴き方、予習・復習の習慣や家庭学習の定着などについてもきめ細かい指導を行う。  イ　生徒の主体的な学習態度を育成するために現状を把握するとともに、すべての授業等において論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。  ウ　生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に応じた教育課程を実施する中で、選択授業の充実を図り、自ら学び考える力や学ぶ姿勢を育成する。  また、発展的学習にも力を注ぎ、高い学力の育成により関西中堅私立大学以上への受験者合格率40％以上をめざす。  エ　「学ぶ意欲」の喚起と学力の定着のため、分掌、学年、教科等が連携し、授業アンケートの活用や教員相互の授業参観等を通した授業改善を推進する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を積極的に活用する。  ※生徒向け学校教育自己診断の「授業満足度」の肯定的回答率（平成30年度平均57％）を毎年4%以上引き上げ、2021年度に69%をめざす。  ※生徒向け学校教育自己診断の「授業で発表する機会がある」の肯定的回答率（平成30年度59％）を毎年4%以上引き上げ、2021年度に71%をめざす。  　（２）英語のコニュニケーション能力の向上を図るとともに、英語の四技能（聞く・読む・話す・書く）の向上を図る授業を実施する。  ア　コミュニケーションツールとして英語を学び、「積極的に英語を使う」学校づくりを推進する。  イ　国際理解教育を推進するとともに、各種検定試験の資格取得を通して英語運用能力の向上をめざす。  **２　キャリア発達の支援**  　（１）望ましい職業観・勤労観を育成するため、進路指導部が学年、関係分掌、各教科と連携を図り、卒業までの３年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。  （２）地域の専門機関等と連携し、「夢」や「希望」、「志」を持ち、自らの進路実現に努力する生徒を育成する。  （３）生徒の主体的学習を推進するため、各学年で生徒が自学自習する機会を設けるとともに、自習室を積極的に活用する。また、ホームページ等を活用して  進路に関する家庭への連絡や情報を積極的に発信する。  ※生徒向け学校教育自己診断の「進路指導関係項目」の肯定的回答率（平成30年度平均74％）を毎年3%以上引き上げ、2021年度に83%をめざす。  **３　誰もが安心して学ぶことのできる学校づくりに向け、生徒の自己効力感と人権意識を向上（「自主自律」や「文武両道」の精神を育成）**   1. 生徒会と各学年が連携を図り、学校行事や部活動等を通して生徒に達成感や成就感を実感させるとともに、行事等を主体的に運営する力を１年次から育成し、自己効力感を高める。併せて、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。   　　　ア　「あいさつ」「服装・頭髪」「時間管理」「集団生活のルールやマナー」等、自律した行動の基礎となる日常的な生活習慣の確立を図る。  イ　円滑なコミュニケーション力やプレゼンテーション力などの育成を通して、対人関係能力の向上を図り、クラスづくりや学年づくりを推進する。  その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用する。  ※学校独自アンケートにより「プレゼンテーション関係項目」の肯定的回答率（平成30年度平均62％）を毎年3%以上引き上げ、2021年度に71%をめざす。（普通科総合選択制アンケートの内容を継承して実施）  ウ　学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みを充実するとともに、ボランティアなどの地域貢献活動も推進する。  ※生徒向け学校教育自己診断の「行事満足度」の肯定的回答率（平成30年度平均71％）を毎年3%以上引き上げ、2021年度に80%をめざす。  ※地域清掃活動への参加者数、延べ500人以上をめざす。（平成30年度350人）  エ　生徒の向上心や協調性・協力性等を高めるため、部活動の入部を促進し活性化を図る。  　（２）他者に対する優しさやちがいを受け入れ、お互いの立場や思いを尊重する心を有し、状況に応じた言動や人権尊重の意識を育成する。  　（３）誰もが安心して学ぶことのできる学校として健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。  （いじめ等の防止、薬物乱用防止の取組み推進、組織的な防災避難訓練の実施）  **４　学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上**   1. 自主的・主体的に取り組む生徒の力を育成するため、目標を共有するとともに、卒業までの３年間を見通し、時宜に応じて組織的・系統的な教育活動を推進する。取組みについては、将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等で連携を図るとともに、取組みを分析・評価し、改善につなげる。   （２）特に下記の学校全体の課題に重点的に取り組む  ・「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」による入学生徒への指導体制の確立とともに、国際交流の取組みの充実  ・教職員の人権意識の向上をめざした研修の充実とともに、人権侵害事象の未然防止（ＳＮＳの適切な使用など）や関係諸機関と連携した指導体制の確立  　　・配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導を行うとともに、保護者や関係諸機関等（ＳＣやＳＳＷ）と連携した教  育相談体制の確立  ・教育活動のホームページ等による積極的で迅速な校内外への情報発信  （３）学校全体で組織的にミドルリーダーや経験の少ない教員の育成に取り組むとともに、教員の自己研さんを進める。  （４）良好な教育環境の確保に努め、施設、設備の計画的な改善に取り組む。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成31年12月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
| （選択肢は、１＝よくあてはまる、２＝ややあてはまる、３＝あまりあてはまらない、４＝まったくあてはまらない。文中の回答の数字(％)は、特に指定しない限り１と２の合計を肯定的回答とする） |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　確かな学力の育成 | (1) 「学ぶことの意味」の理解とともに「学ぶ意欲」の醸成  「主体的・対話的で深い学び」の観点から、基礎学力の定着、ならびに自らの考えを的確に伝える力やコミュニケーション力の育成  ア　授業規律の徹底指導と基礎学力の向上  イ　主体的な学習態度と論理的な思考力を育成  ウ　生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に応じた教育課程の実施  エ「授業力」の向上を目的とした授業公開・研究協議会を実施 | (1)  ア　・全ての授業で、授業開始の挨拶や授業準備などの授業規律の徹底を図る。  　・新入生オリエンテーションやすべての授業で、聴く姿勢や授業ノートの作り方等を、継続的に指導（定期考査返却時の活用）  ・学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用して、「考えをまとめたり発表したりする機会」の充実を図る。そのために教科会等で検討を行う。  ・授業での目標明示とふり返りの実施により、基礎学力の定着を図る。また、生徒の意識のあり方、困り感やつまずくポイントを踏まえて、授業の見直しを行う。  ・アンケート結果等を踏まえた効果的な習熟度別少人数授業を実施する。  ・１年次の国語・数学・英語に加え、２年次以降の科目でも習熟度別（少人数）授業を実施する。  イ　・本校生に対応した指導計画や指導方法の蓄積と効果的な方策を検討する。その際、習熟度別少人数授業に関するアンケート結果等を踏まえた検証を行う。  ・すべての授業で論理的に考え、まとめ、発表する機会を充実する。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を活用して、生徒のコミュニケーション力を育成  　・平成31年度からの「高等学校基礎学力テスト」の実施等に向けて、各教科において論理的な思考力を育成する。  ウ　・生徒実態や進路実現に応じた教育課程になるよう、教科会、教科代表者会議を中心に検討  　　・学年・教科が連携を図り、年間を通して、より計画的で効果的な補習・講習を実施  エ　・授業アンケート結果を教員および教科等にフィードバックし、「ふり返りシート」を作成することにより、各教科で年間を通して授業改善に取り組み、結果を検証  その際、生徒の意識のあり方、困り感やつまずくポイントの把握、及び知識を活用する力の育成  また、「わかるからできる」、「できるから使える」の観点から取組みと検証も行う。  ・教科代表者会議等で以下の取組みを実施  学習指導計画に関する情報提供  生徒のモチベーションを高めるために、評価方法等の工夫・改善について検討  ・目標やテーマを設定して授業公開週間を複数回行うとともに、研究協議会を実施 | (1)  ア・生徒向け学校教育自己診断の  「授業満足度」  61％以上（H30：57％）  ・授業アンケート「授業内容について、必要な予習や復習ができている」「授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる」  平均値3.2を維持（H30:3.2）  イ・全教科で成果と課題を整理  ・生徒向け学校教育自己診断の  「授業で、自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」63%以上（H30:59％）  ・学校独自アンケート「主体的な学習態度関連項目」（「自分で考える力」「物事を調べる力」）  58％以上（H30:54％）  ウ・生徒向け学校教育自己診断の  「自分の進路に必要な科目が選択できた。」77％以上（H30:74％）  ・四年制大学進学における  希望実現85％以上（H30:83％）  ・学校斡旋就職100％維持  　・教員向け学校教育自己診断の  「学習内容がわからない生徒について、補習など、適切に指導を行っている。」  88％以上（H30:86％）  エ・教員向け学校教育自己診断の  「学習指導計画・指導内容について教科で話し合う機会がよくある」71％以上（H30:68％）  ・生徒向け学校教育自己診断の  「教え方に工夫をしている先生が多い」66％以上（H30:62％）  　　・授業公開と研究協議会の実施  （年２回以上）  　・外部講師等による研修  （年1回以上） |  |
| ２　キャリア発達の支援 | (1)望ましい職業観、勤労観を育成するため、３年間を見通した組織的なキャリア教育を推進  (2) 地域の専門機関等と連携し、進路実現の意識を高める取組みを推進  (3)主体的な学習態度の育成 | (1)  ・卒業までの教育活動全般を通して、組織的・  系統的なキャリア教育を推進するため、進路指導部が学年、関係分掌、各教科と連携を図り、卒業までの３年間を見通した指導計画を作成する。  ・時間の有効な活用や計画的に行動できる生徒を育成するため、全学年でスケジュール帳の積極的な活用を推進する。  ・ソフトスキル（コミュニケーション力やリーダーシップ・フォロワーシップ等）育成の観点を踏まえ、生徒の目標設定や取組みの推進を働きかける。  　また、進路指導部が中心となり、過去データや教育産業データの有効活用を図る。  生徒の取組みを整理するために、ｅポートフォリオ等を活用  ・懇談等の機会を活用し、進路に関する情報（模擬試験や進学に関する経費等）を保護者へていねいに発信する。  (2)  ・普通科専門コース制の系・コースについて、地域の専門機関等を活用して、生徒の進路意識を高める説明会や体験の機会を設定  (3)  ・教員研修の実施等により、生徒が主体的に学習に取り組む発問等、授業の工夫・改善に取り組むとともに、アンケート等により成果を検証  ・生徒の主体的な学習を推進するため、各学年及び各教科で、生徒が自学自習する課題や機会を計画的に設定する。 | (1)  ・生徒向け学校教育自己診断の  「進路指導関係項目」  77％以上（H30:74％）  ・保護者向け学校教育自己診断の「進路に関して連絡や適切な情報提供を行っている」  73％以上（H30:70％）  (2)  ・各学年で体験等の機会を確保  （年１回以上）  (3)  　・生徒向け学校教育自己診断の  「授業で分からないことについて先生に質問しやすい」  69％以上（H30:66％）  ・学校独自アンケート「主体的な学習態度関連項目」（「自分で考える力」「物事を調べる力」）  58％以上（H30:54％）  ＊１「確かな学力の育成」イ「主体的な学習態度と論理的な思考力を育成」より再掲  　・各学年及び各教科で生徒の実態を踏まえ、目的意識を高めるために講習・週末課題等を実施  　・教員向け学校教育自己診断の  　　「教職員全体で進路指導に取り組む体制」60％以上（H30:57％） |  |
| ３　誰もが安心して学ぶことのできる学校づくりに向け、  　　　　　　　　生徒の自己効力感と人権意識の向上 | (1)生徒の自己効力感の向上と社会性の育成  ア　基本的生活習慣の確立  イ　コミュニケーション力などの対人関係能力を向上  ウ　達成感や満足感の伴なう取組みの充実  エ　部活動の活性化  (2)豊かな人権意識の育成  (3)健康安全教育及び防災教育等の推進 | (1)  ア　・遅刻する生徒の実態を踏まえた具体的な指導方法を検討し、学校全体で取り組む。  　　・スマートフォン・アルバイトについて、生徒状況を踏まえて適切な指導を行う。  ・相互の挨拶の徹底指導を図る。  ・全校でのあいさつ運動を実施する。その際教員から積極的に挨拶を実施  ・自らルールを遵守できる生徒を育成するため、指導のあり方について教職員が方針を共有し、学校全体で指導に取り組む。  その際、多様な生徒に配慮しながらも、ルールを守る指導を行う。  ・指導方針等について、ていねいな説明により生徒・保護者との協力体制を構築する。  イ　・「総合な学習の時間」や学年行事、ホームルーム活動等を活用し、生徒一人ひとりに「考える、まとめる、発表する等」の機会を提供し、コミュニケーション力を育成。その際、学校経営推進費により整備した視聴覚機材等を積極的に活用。取組みについては、アンケート等により成果を検証  ウ　・生徒会と各学年が連携を図り、学校行事や部活動等を通して生徒に達成感や成就感を実感させるとともに、行事等を主体的に運営する力を１年次から育成  ・体育祭の応援団指導、文化祭指導等について教員の指導委員会での計画的な指導とともに、生徒の取組みに教員が積極的に関わる。  ・生徒会や部活動等が中心となり、地域貢献活動やボランティア活動への参加を働きかけることにより、自己肯定感（コミュニケーション力や自分の強みをきちんと答えることができる力等）を育む。  エ　・入学直後の部活動紹介の工夫や、新入生の全員仮入部の実施など、ていねいな入部指導により加入を促進  　　・ホームページや広報誌等の活用により部活動の試合予定等を周知  (2)  　・文化祭や体育祭などの学校行事、国際交流行  事、国際理解学習等の人権意識を育む機会を通して、ルールを守るとともに、人を思いやる意識を育む。  ・クラス、学年での活動を通して多様性を認める集団づくりに取り組む。  (3)  ・健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する。 | (1)  ア  ・遅刻者総数を年間2000件以下にする（H30：2897件）  ＊３月末  ・教員向け学校教育自己診断の  「協力して生徒指導に当たっている」78％以上（H30：81％）  ・朝のＳＨＲを継続して実施  ・保護者向け学校教育自己診断の「学校の生徒指導方針に共感できる」66％以上（H30：70％）  ・生徒会主催で「あいさつ運動」  を学期に１回実施  イ・学校独自アンケート「コミュニケーション力関係項目」 65％以上（H30:62％）  　・各学年で「総合的な学習の時間」等を活用した発表の機会を設ける（年１回以上）  ウ・生徒向け学校教育自己診断の  「学校行事満足度」  74％以上（H30：71％）  ・参加者数500人以上  （H30：350人）  ・くろーばぁ活動として、地下鉄通訳ボランティア、大阪マラソン通訳ボランティア等に参加  　・他の部活動で、大阪マラソン力持ちボランティア等に参加  エ・生徒向け学校教育自己診断の  「部活動満足度」  70％以上（H30:67％）  　・各学期に１回、活動予定を周知  (2)  ・生徒向け学校教育自己診断の  「学校で人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」  75％以上（H30:72％）  (3) いじめ対策委員会（各学期１回）  薬物乱用防止教室（年１回）  組織的な防災避難訓練（年１回） |  |
| ４　学校全体の課題を解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上 | 1. 分掌・学年等の年間目標設定と評価の達成に向けた組織的な取組み   (2)学校全体の課題への重点的な取組み    (3)経験の少ない教員の育成、及び業務の見直しによる教員の負担軽減  (4)老朽化した施  設・設備の改善 | (1)  ・自主的・主体的に取り組む生徒を育成するため、年度当初、全教職員で具体的な目標設定と共有を行う。  目標設定の際には、個々の生徒だけでなく学年全体を三年間見通すとともに、リベラルアーツ（異なる考え方を理解する力等を育むための幅広い知識）を獲得させる観点を踏まえる。  ・将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等で連携して取組みを進める。また、各学年においては担任だけでなく副担任等とも情報共有のうえ、連携して取組みを行う。  ・学年主任会等の機会を活用して、目標の明確化及び共有とともに、期間（考査・学期）ごとのふり返りにより、取組みの分析・評価を行い、次学年にも引き継ぐ。  (2)  ・渡日生の受け入れについて学外への周知に努める。学内では分掌業務に位置付けるとともに、学校全体で取組みを推進  　・スタディツアーの実施等、国際交流の取組みを推進する。  ・教職員研修等による情報共有や全教職員での話合いの一層の充実により、教職員の人権についての意識を高める。  ・教員からの働きかけや、生徒が人権について学ぶ機会を充実することにより、人権を大切にする生徒を育成する。  　・ＳＮＳの適切な使用について各学年で生徒向  　　け学習会等を実施  ・教職員研修等により、個々の教職員が生徒の相談や抱える悩みなどに対応できる力を獲得する。  ・高校生活支援カードの活用の充実などにより、配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有  ・生徒の変化に迅速に対応するため、教育相談委員会を中心に保護者や関係諸機関等（ＳＣ、ＳＳＷ、福祉機関等）との連携充実を図ることにより、教員の負担軽減に努める。  ・ホームページや学校パンフレットを活用し、本校の特長（普通科専門コース制、特別枠入試等）について情報発信する。  ・自然災害等緊急時に備えてホームページの整備を行う。  (3)  　・管理職、首席、指導教諭等を中心に、経験の少ない教員を育成、指導するための研修会等を実施するとともに、ふり返りを行い、結果を教員で共有する。  　・学校全体で業務の見直しを行い、教員の負担軽減に努める。  (4)  　　施設・設備についての改善計画をもとに、環  境改善に努める。  ・生徒の自主的な取組みを一層推進し、学校全体での取組みに拡大するとともに、全生徒の環境整備についての意識を高める。 | (1)  ・教員向け学校教育自己診断の  「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」  86％以上（H30:84％）  ・教員向け学校教育自己診断の  「分掌や学年等での連携が円滑に行われている」  74％以上（H30:71％）  　・教員向け学校教育自己診断の  「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」68％以上（H30:65%）  (2)  ・学内外の説明会で受け入れについて周知（５回以上）  ・学習・生活面について校内で学習会・研修会等を実施（各学期１回以上）  ・生徒によるスタディツアー報告会を実施する。  　・教員向け学校教育自己診断の  「人権尊重に関して全教職員で話し合っている」  62％以上（H30:58％）  　・生徒向け学校教育自己診断の  「人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」  75％以上（H30:72％）  ・生徒向け学校教育自己診断の  「ＳＮＳを適切に使用し、安心して学校生活を送っている」  87％以上（H30:84％）  ・保護者向け学校教育自己診断の「子どもはＳＮＳを適切に使用し、安心して学校生活を送っている」87％以上（H30:84％）  　・生徒向け学校教育自己診断の  「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」71％以上（H30:68％）  ・保護者向け学校教育自己診断の「学校のホームページをよく見る」44%以上（H30:40％）  (3)  　・研修会を各学期に１回実施  　・運営委員会で年間を通して、業務の見直しを行う。  (4)  　・定期的に生徒会主催で学校内外の清掃活動を実施  （各学期1回以上）  ・教員向け学校教育自己診断の  「教室や廊下等の清掃をはじめ、教育環境の整備に努めている」75％以上（H30:72％）  　・生徒向け学校教育自己診断の  「教室や廊下等の清掃が行き届いている」  53％以上（H30:50％）  ・生徒向け学校教育自己診断の  「学校の施設や設備、学校で使う道具や器具がこわれたときは、すぐに修理したり取り替えたりしてくれる」  60％以上（H30:56％） |  |